

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年6月20日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年5月22日(月)内門公民館(参加者16名)

地域包括ケアシステムって、よく分からないです。・・・「聞いたことはあるけどねえ...」
「ポックリと死ねた方がいいに決まっているよ!」と、皆さんでうなづいて・・・(笑い)
病院は、入院したら3ヶ月って云われるけど、そう決まっているんですか・・・?
このマイライフノート(エンディングノート)はすごくいいと思います。やっぱり書いておくことが大事ですね。
「介護の事とか、これから考えていかんといかんもんね。相談しに来るかもしれません。」

(入院期間についての質問があり、現時点での病院の状況についてお答えしました。
マイライフノートについて共感して頂きました。活用していただきたいと思います。
それぞれをいたわる声掛けや、会話があり、ずっとこの地域で過ごしてきた繋がりの強さを感じました。)

平成29年5月25日(木)宇都公民館(参加者13名)

「ジックリ・・・ポックリって、どっちかと言えばやっぱりポックリがいいよね。じっくりは長いとイヤだよね...」
「これからの事をみんなで話すことは良くありますよ...」
地域包括ケアシステムって聞くけどよく分からないですよね。
一人暮らしで介護が必要になった時どうしたらいいか心配です。
長く家族の介護をしてきました。今日の話は、自分の勉強になりました。

(この地域は、七夕祭りや行事などで繋がりが強い地域です。と話されていました。
会場でも高齢の方への声掛けや、さりげないサポートなどの配慮が見受けられました。
皆さんが静かにうなづきながら耳を傾けて頂きました。)



(内門公民館)



(宇都公民館)